

2

2つのモールが校舎をつなぐ 既存施設も活きる建築計画

既存施設を含めた分散配置による
のびやかな郊外型キャンパス

八千代松陰高等学校

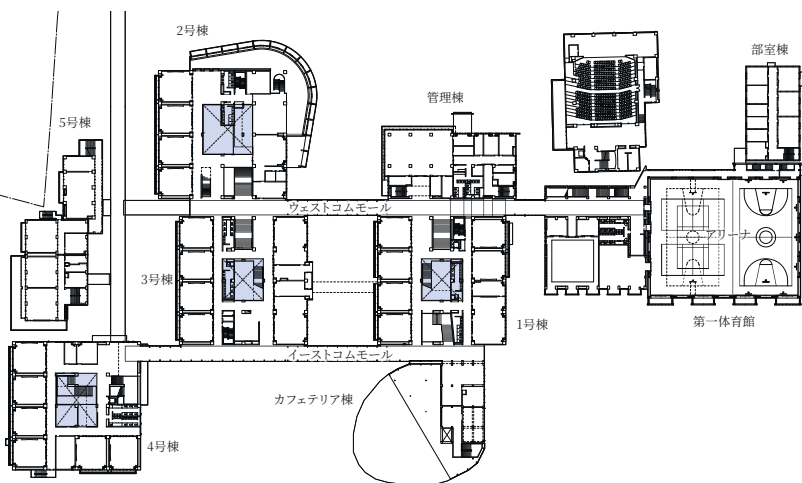
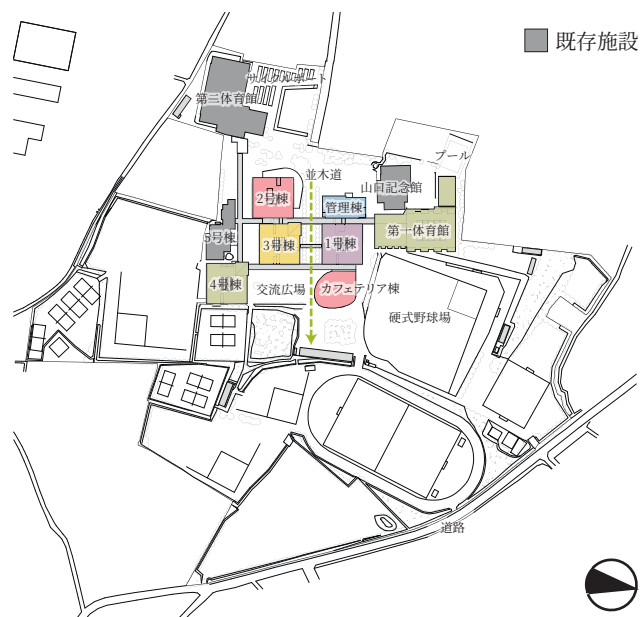
学科等/中高一貫・普通科 クラス数・生徒数/48クラス・2021人 建築主/学校法人八千代松陰学園
所在地/千葉県八千代市村上727 工事種別/改築 敷地面積/150,971m² 延床面積/42,968m² 竣工/2007年8月

■計画・整備のねらい

- 既存施設と改築校舎群が直行する（並木道及び2つのコムモール）で結ばれた明快な配置
- 習熟度別クラス編成における多数の生徒の移動に対応
- 校内の移動を楽しくし、また、生徒・教職員の交流を育む場の提供



15万平方メートルの広大な敷地と恵まれた環境を生かしてキャンパス整備を実施。



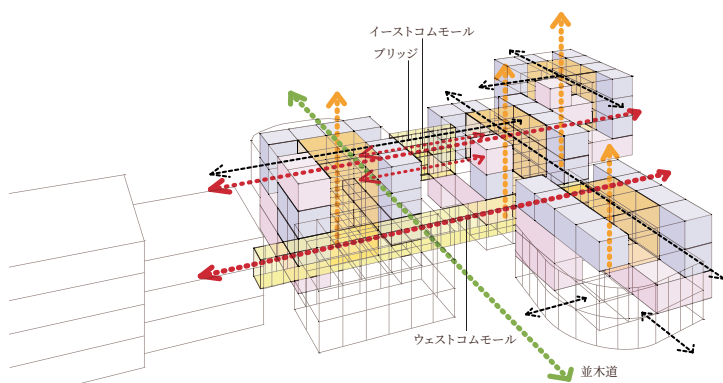
2階平面図

配置図。中央に吹抜けを持つコの字型平面の校舎ユニットを組み合わせることで、親しみやすいスケール感を持つ変化に富んだクラスター型校舎を実現。分散する既存3棟と新校舎群をコムモール（コミュニケーションモール）やブリッジ、渡り廊下でつなげた。

計画・整備のポイント

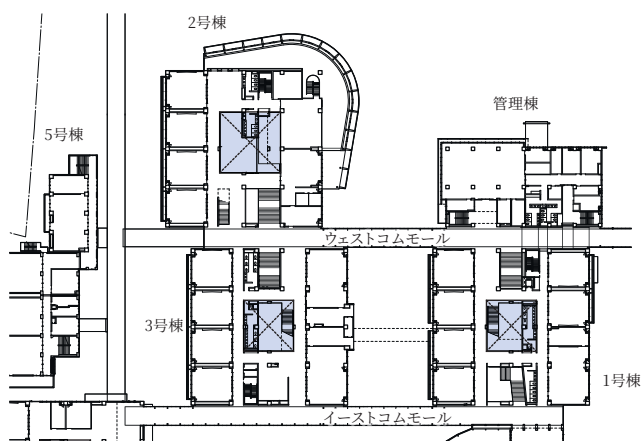
○ロの字型平面の独立した4棟の教室棟と管理棟、カフェテリア棟、新体育館などを複数のコムモール(コミュニケーションモール)や渡り廊下で順次つなぐというマスタープランにより、仮設校舎なしで整備することを可能にした。

各教室棟は9m×9mのユニットを縦横各4つずつ並べた構成とし、それぞれ教室数や室構成に変化を持たせている。



施設整備の工夫点

○教員と生徒、生徒同士の交流、移動がスムーズな施設構成



コムモールはイーストおよびウエストの各棟を結ぶ2本の主要動線。幅広でガラス張りの壁面を有しており、四季の自然が感じられる、多様なコミュニケーションの場にもなっている。



多目的スペース。各教室棟の吹抜けに面するアルコーブ状の小スペースで、コミュニケーションや展示等に利用できる。



メディアセンター。図書館とメディアラボを吹抜け空間で一体化。図書館は曲線の壁面で形成した開放的な空間で、屋内外の視覚的な連携も図られている。



カフェテリア。中高生が一斉に利用することを想定し、柱列により複数の領域を設定。中高生や教員の緩やかな場のすみ分けに配慮している。

教育効果のポイント

- 廊下や階段に十分な広さがあるので授業間の移動がスムーズになり生徒の負担が少なくなった。
- メディアセンターは開放的な吹抜け空間で間接・直接照明、自然光の使い分けにも配慮されていて快適。昼休みや放課後に多数の生徒が利用している。
- 多目的スペースやカフェテリアでは学年を超えたコミュニケーションが育まれている。